

胸部心臓血管外科この一年

胸部心臓血管外科医長 眞岸 克明

診療スタッフ

平成16年度には4月より、木村文昭が加わり新たな体制となりました。

診 療

平成16年の手術件数は232例で昨年と比べ、ほぼ横ばいとなりました。4月から循環器呼吸器内科の診療体制の縮小と、7月からの完全閉鎖により院内からの紹介による手術例は途絶えました。しかし、市立稚内病院、市立土別総合病院循環器内科をはじめ多くの先生方にご支援をいただき、心大血管手術は53例、末梢血管症例も105例を行うことができました。しかし、呼吸器系手術例は減少しました。疾患の地域発症数が減少しているのかもしれませんが、循環器呼吸器内科閉鎖により他地域へ治療に行かざるを得ない状況となってしまうとしたら、悲しい状況といわざるを得ません。私どもも可能な限り、肺炎、気管支喘息はじめ心不全、不整脈、虚血性心疾患等内科的疾患の患者様の診療に当たるように努力いたしました。早く“外科”の仕事に専念できる日を心待ちにし、しかし現状を鑑み、外来診察室も増やし、市内をはじめ周辺地域に可能な限りの医療サービスを提供したいと考えております。7月以降の冠動脈カテーテル検査は20件を越え、徐脈の患者様には緊急で一時的ペースメーカーをつけ、数名の方は救命できたと自負しております。

当科で平成16年一年間に行った手術例を別表に示します。

学術活動

日常診療のほか、学術活動にも積極的に参加するように心がけております。全国学会では、口演、シンポジウム等で4題、地方会や研究会で11演題を発表いたしました。いずれも心血管疾患関連の内容でありました。論文発表は、英文誌が2編、邦文誌1編、名寄市立病院医誌へ2編の執筆を行いました。心血管系疾患が3編、呼吸器関連疾患が2編となっております。

おわりに

平成16年夏から診療面では厳しさを増しておりますが、多くの症例の蓄積から次のよりよい診療へつなげるため、日常診療、学術活動とも取り組む所存です。深夜、早朝にかかわらず多くの病院スタッフ方々のお力添えで、重篤な患者様の診療に当たってこられましたこと、末筆でございませぬが感謝申し上げます。

平成16年手術症例

1. 心, 大血管疾患	53例
冠動脈疾患	27
弁疾患	12
胸部大動脈疾患	15
腫瘍	1
	(重複例 2)
2. 末梢血管疾患	105例
腹部大動脈瘤	16
末梢動脈疾患	32
下肢静脈瘤	38
内シャント	17
静脈再建/形成	1
下大静脈フィルター	1
3. 胸部, 肺疾患	25例
肺癌	10
気胸	9
良性腫瘍	1
膿胸	1
巨大嚢胞	1
縦隔	3 (腫瘍2, 縦隔炎1)
4. その他	49例
総数	232例